



西高が目指す国際理解教育

—平成 30 年度 2 年生国際理解コースの取組—

1 西高国際理解コースを始めるにあたって

本校は、昭和 39 年に尾張の西部に創立され、以来半世紀にわたり、「自由で明るく」—規律と責任—をスクールモットーに掲げ、進学校として尾張地区の教育の中核を担ってきた。平成 25 年には創立 50 周年を迎え、「誇り・自信・夢～西高半世紀の伝統と挑戦を胸に～」というキャッチフレーズのもと、新たなスタートを切ったところである。

また、社会経済のグローバル化に伴い、平成 25 年度に県教育委員会から、英語教育の拠点となる「あいちスーパーイングリッシュハブスクール」の指定を受け、今年で 6 年目に入った。さらに、平成 29 年度には国際理解コースが設置され、本年度 2 年生からスタートすることとなった。

国際理解コースは、「英語が上手になりたい」、「将来、英語を使う職業に就きたい」と考える生徒が選択するコースと捉えられがちであるが、本校生徒の進路希望、保護者の思い、地域の要請などを踏まえ、西高としての国際理解コースの在り方を以下のように設定した。

【コンセプト】 国際理解や国際関係に関わるさまざまな取組に挑戦し、国際的な視点を身に付け、政治や経済・産業界、文化、教育、福祉など多様な分野で、国際的に活躍する若者の育成を目指す。

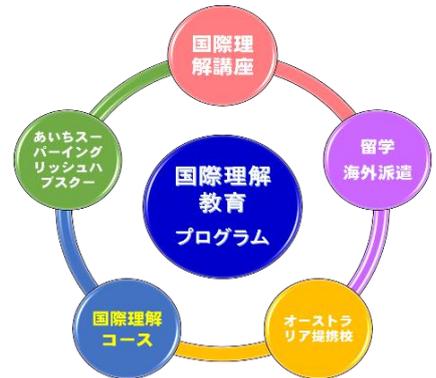
【進路目標】 経済、法学、社会学、総合政策、国際関係など、外国語学部を含め、社会科学系の学部を中心に、難関国公立大学に進学することを目指す。

2 本校の国際理解教育

(1) ICHINISHI 国際理解教育プログラム

1 年生ではコースを分けず、全員共通履修とし、コミュニケーション英語 I、英語表現 I で英語 4 技能の向上を目指した授業を実施している。教員は英語を基本として授業を行い、ディスカッションを随所で行ったり、パフォーマンス評価を取り入れたりするなど、生徒の聴く力・発信する力の伸長を目指している。本年度の地区別授業研修での公開授業でも、生徒の発信する意欲と力が高く評価されている。

ICHINISHI 国際理解教育プログラムイメージ図



(2) 国際理解講座

全校生徒対象、各学年、コース対象など、文理を問わず、さまざまな分野で国際的に活躍する外部講師を招き、「国際理解講座」を実施している。

本校で英語の非常勤講師を務めている杉本尚美先生は、在オランダ日本大使館で勤務された元外交官であり、その経験を 1 年生全員に語ってもらった。

また、元国際公務員・アジア開発銀行上級資源エコノミストとして活躍された近藤敏夫先生



【講話を基にディスカッション】



【近藤敏夫先生の講話】

は、自らの経験を通して、思慮深く、頼りがいがあり、謙虚で礼儀正しい日本人気質が、今こそアジア、世界で求められていると熱く語られ、2 年生国際理解コースの生徒たちは、将来の目標を考える上で大きな刺激を受けていた。

11月23日に実施した国際理解講座（教育講演会）は、保護者の参加も募り、アジアで20年以上、2万人の命を救った小児科医・吉岡秀人先生（ジャパンハート代表）が来校され、自らの経験を語っていただくとともに、生徒たちに問題提起や熱いメッセージを贈ってもらった。吉岡先生の生き様に、生徒たちは圧倒されながらも、国際社会で働くこと、貢献することの意義を考え、自身の進路目標や職業選択に繋げることができた。



【図書館の吉岡先生コーナー】



【吉岡秀人先生の講演】

【平成30年度国際理解講座一覧】

月日	対象	講師（敬称略）	講座名
平成30年6月5日	1年 全員	杉本尚美（元外交官・本校非常勤講師）	「海外で働く」
平成30年7月25日	2年 国際	ピーター・フランク（数学者・大道芸人）	「世界100カ国の面白体験談」
平成30年10月25日	2年 国際	近藤敏夫（元アジア開発銀行上級資源エコノミスト）	「国際社会での“輝き方”を共に考える」
平成30年11月13日	2年 国際	杉本尚美（元外交官・本校非常勤講師）	「点と点をつなぐ」
平成30年11月22日	3学年 全員	吉岡秀人（NPO法人ジャパン・ハート代表）	「私が出会った”いのち”の記憶～途上国医療の現場で戦い続ける医師からのメッセージ」
平成30年12月7日	2年 国際	池上あきこ（フリーアナウンサー）	プレゼンテーション講座
平成31年1月11日	1年 国際	山ノ井優美香（NGO職員・本校OB）	「国際ボランティア・国際協力について」
平成31年1月18日	1年 国際	カサンドラ（一宮国際交流協会）	「多文化社会」

3 国際理解コースの取組

(1) 名大スタディツアー（5月）

「名大スタディツアー」とは、名古屋大学GSID（国際開発研究科）の留学生や大学院生とのグループディスカッションを中心とした、1日名大を訪問する行事である。政府の奨学金をもらって来日する留学生たちは、帰国後、国の発展に貢献することが期待されており、研究テーマも租税条約政策、土地所有権の形式化など自国の課題や将来の発展を見据えたものが多い。この段階では、生徒たちは事前に準備をした「定型の質問—応答」の域を脱していないが、今後の学びに繋がる貴重な体験となった。



【留学生とのディスカッション】

(2) 学校設定科目の取組

国際理解コースの柱の一つに学校設定科目がある。以下が主な取組である。

◆「国際英語」

○スピーキング力の向上・・・国際ルームで、（スピーキングトレーニングの）専用アプリを用い、リスニング力・スピーキング力の向上や強化を図っている。また、本年度後半は、生徒



【スピーキング力の向上】

一人一人がフィリピン人講師と個別に会話するレッスンを開始している。

○読解力の向上…新聞やネット上の記事を読み、テーマ（例：世界遺産、環境問題など）に沿ったエッセイ（英語 100 語程度）を書く。

○オンラインセッション…オーストラリアの提携校 Kirwan State High School とオンラインを利用してプレゼンテーションを行う。平成 30 年度は 3 回実施した。

◆「比較言語文化」

テーマを決め、グループで探究活動を行い、発表を行った。



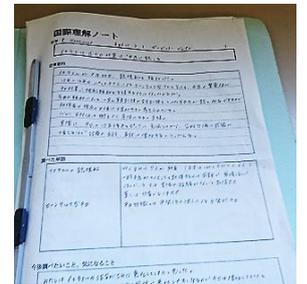
【オンラインセッション】



【遣唐使についてのグループ発表】



【国際理解ノート】



◆「国際理解ノートと発表・意見交換」

年間を通じて、生徒はニュースウィークから各自で記事を選び、語句調べや要約、自分の意見を「国際理解ノート」にまとめている。それを基に、毎日交代でスピーチを行っている。2 学期後半には、発表者の話を聞き、意見交換し、発表者に還元するところまで取組が深化している。



【発表と意見交換の様子】

(3) 地域のグローバルセミナー（7 月）

一宮市国際交流協会主催の七夕グローバルセミナーで、生徒たちが「親子英会話教室」を企画・運営した。参加者には大変好評であった。



【親子英会話教室】



(4) 国際理解コース台湾修学旅行（10 月）



【臺南一中のバチカ交流】



【ホームステイ先の家族と楽しい夕食】



【故宮博物院の前で…】

台湾について事前に探究学習を行い、準備をして出かけた。4 日間の旅行で生徒たちは、「アジアの中の日本人」として自覚を持ち、視野を広げ、物事を深く考えることができるようになった。特に、台南第一高級中学の生徒のお宅にホームステイをさせてもらったことは、貴重な経験になった。



【生徒作成の台湾修学旅行レポート】

(5) 台南一中の来訪・交流（1月）



【西高生がバディとして大須を案内】



【15:30 西高到着。歓迎セレモニー】



【茶道、箏曲、弓道、剣道の部活動体験】

修学旅行で学校間交流、さらにホームステイを経験させてもらった台南第一高級中学の生徒 68 名が来訪し、西高生と再会。今度は西高生がバディとして大須界限を案内した。さらに、一緒に電車を乗り継いで西高まで来てもらい、歓迎セレモニー、部活動体験行った。大変有意義な時間を共有できた。

(6) 課題研究発表

3 学期は、国際理解コースでの学びを通して、各自がテーマを決め、課題研究発表に取り組み、発表を行った。生徒たちは、国際英語 I など学校設定科目で学んだことやさまざまな体験活動の中からテーマを見つけ、リサーチクエスチョンを立て、探究を行った。1 学期に比較言語文化で実施した発表からかなりの成長を見て取ることができた。この発表をさらに改善し、新年度、1 年生及び 2 年国際理解コース生にプレゼンテーションを行う予定である。

【主な課題研究テーマ】

ビザから見る国同士の関係
アフリカ諸国の識字率比較から
日本の移民受け入れについて
グローバル化による伝統文化の変化
日本における LGBT 問題～オランダでは
欧米と日本の超自然的な事物に対する見方の違い



(7) 提携校・オーストラリア研修（3月）

【課題研究発表の様子】

西高の提携校は、Kirwan State High School

提携校とは、「国際英語」の授業で、オンラインセッションを実施して交流している。また、3 月下旬には、「オーストラリアスタディツアー」として、15 名（1, 2 年）の生徒が 8 日間現地を訪問し、ホームステイや授業研修などを行い、国際感覚を身に付ける。

(8) その他の活動

国際理解コースを中心に、「あいち国際戦略プラン 2022」に基づく高校生海外訪問団や派遣などに参加している。2018 年度は、「愛知県高校生訪問団京畿道派遣」「愛知県高校生訪問団バンコク都派遣」「愛知高等学校男女共同参画海外派遣」に参加し、12 月の全県で実施された「イングリッシュフォーラム」で発表した。その他、「留学生チャレンジ事業」「イングリッシュキャンプ in あいち」「DMO プロジェクト（愛知県立大学）」などにも積極的に参加している。

丹羽翔子さん（韓国 京畿道）안녕하세요!（こんにちは）7/21～26 の 6 日間、韓国へ行きました！韓国の高校では韓国人の日本語力が高いこと、日本を好きだと言ってくれる人が多くて驚きました。皆、とても親切で日本人の私にもわかるように通訳してくれました。充実した 6 日間でした。

4 成果と課題

この 1 年、国際理解コースの生徒は、西高国際理解教育のパイオニアとしての自覚と自負をもち、新たな取組に果敢に挑戦している。今後も質の高い教育を提供できるよう、取組の充実を図っていきたい。